

令和 5 年度厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業
分担研究報告書

早期診断を強化するための IgG4 関連疾患診療ガイドンス

研究分担者	吉藤 元	京都大学大学院医学研究科 内科学講座臨床免疫学 講師
研究分担者	坪井 洋人	筑波大学医学医療系 膠原病リウマチアレルギー内科学 准教授
研究分担者	水島 伊知郎	金沢大学附属病院 腎臓・リウマチ膠原病内科 助教
研究分担者	高比良 雅之	金沢大学附属病院 眼科 講師
研究協力者	内藤 格	名古屋市立大学医学部附属みどり市民病院 消化器内科 部長
研究協力者	澤 直樹	虎の門病院 腎センター内科 部長

研究要旨

IgG4 関連疾患 (IgG4-RD) に関する診療ガイドンスの作成は、一般臨床医が潜在的な症例を特定し、タイムリーに専門医を紹介できるようにすることを目的としている。金沢大学の川野充弘、野村英樹、京都大学の吉藤元が主導したこの取り組みでは、昨年までに作成した原稿を改良し、用語を標準化し、病態と診断に関する新たな知見を加えて内容を充実させた。診断画像の追加と外部評価者のフィードバックによって強化された診断ガイドンスは、初稿が 2023 年 10 月に完成した。2024 年に出版される予定で、この研究により IgG4-RD の認識と管理における知識のギャップを埋め、患者の転帰を改善することが期待される。

A. 研究目的

IgG4 関連疾患 (IgG4-RD) は多面的な疾患であり、その多様な症状や誤診の可能性から、一般臨床医にとって重要な課題となっている。効果的な管理には、早期発見と専門医への紹介が重要である。包括的な診断指針の必要性に対応するため、本研究では、IgG4-RD 患者の早期発見と適切な紹介において臨床医を支援するために、昨年までに作成してきた診断ガイドンスの原稿を改良・更新することを目的とした。このプロジェクトの第一の目標は、利用しやすく実用的な IgG4-RD 診療ガイドンスを開発することであった。このツールは、一般臨床医が IgG4-RD の症状を認識し、その複雑な性質を理解し、専門医療機関への紹介プロセスを効率的に開始する能力を高めることを目的としている。

B. 研究方法

前研究班から引き継いだ原稿の総合的な見直しと改善を行った。この取り組みには以下が含まれる。まず、外部評価として、この分野の著名な専門家からのフィードバックを取り入れた。次に、内容の充実のために、IgG4-RD の病因と病態に関する包括的なセクションを追加した。最後に、原稿の言葉を統一し、わかりやすくするために略語を簡潔にまとめた。

(倫理面への配慮)

本課題は、ガイドラインの策定に属するものであり、直接に患者や患者情報を対象としないため、倫理申請は不要である。

C. 研究結果

前研究班から引き継いだ原稿に対する共同作業の結果、詳細で使いやすい IgG4-RD 診療ガイドンスの初稿が完成した。主な成果は以下の通りである。原稿の改訂として、外部査読者からのフィードバックに対応し、ガイドンスを洗練させた。内容の追加を行い、IgG4-RD の病因と病態に関する重要な洞察を盛り込み、理解を深めるための診断画像を追加した。一貫性と使いやすさを確保するために、用語を統一した。

D. 考察

改良された診療ガイドンスの原稿は、より広い視野で原稿を充実させ、その実用性を高めるステップである、各学会によるパブリックコメントを予定している。2024 年に予定されている出版は、IgG4-RD の分野での重要な進歩を意味し、診断と紹介の実践への標準化されたアプローチを促進するものと期待される。

E. 結論

IgG4-RD 診療ガイドンスの作成は、一般臨床医におけるこの複雑な疾患の認識と管理を改善する上で極めて重要な成果となる。明確で、包括的で、アクセスしやすいリソースを提供することで、このイニシアチブは、IgG4-RD の早期発見、タイムリーな紹介、そして

最終的にはより良い患者ケアを促進することを目指している。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

1. Yoshifuji H, Umehara H. Glucocorticoids in the Treatment of IgG4-Related Disease - Prospects for New International Treatment guidelines. Mod Rheumatol. 33(2);252-257, 2023

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし